

稲山会

通信

第29号

2014年7月1日発行

発行人：斉藤雄二 発行所：稲門山の会事務局 TEL03-3367-3723 FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

2014年 稲門山の会新年会報告

金子治雄 (S41年卒) 記

2月1日、大隈会館で2014年稲門山の会の総会と新年会が盛大に開催されました。今年も遠方の方々がたくさん参加されました。米沢から吉澤OB、十日町から滝沢OB、諏訪から金子(弘)OB、白馬から小久保OG、那須から鈴木(精)OB、福井から小竹OB、北海道から狩野OBの方々です。

また現役学生ではニュージーランドの留学から帰った角田君(4年)と新幹事長の山川君(3年)の2名が参加しました。増田君(4年)と渡辺さん(3年)は就活でやむなく欠席しました。

今年は、アフリカに誕生した人類が世界に拡散したと云われるコースや、日本列島に移住した人類の様々なコースを踏破し、長い間自らの力でグレートジャーニーを実行している関野吉晴氏に講演をお願い致しました。関野氏は一橋大学に在学中、探検部を創設し、アマゾンをはじめ南米を探検し、現地で医療の必要性から、横浜市大医学部に入り外科医師となりました。氏は南米での活動から早稲田大探検部に籍を置き、また山岳部、岳友会など早稲田の山岳グループと浅からぬ縁があり、今回の公演も南米遠征を行った豊田OBを通じて講演をお願いしたのです。関野氏のスケールの大きなアドベンチャーに参加者は皆、感銘を受けました。

出席者

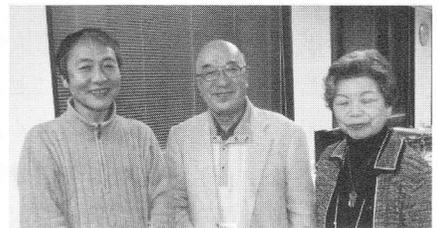
33年卒 上田、高橋
 35年卒 小島、宮野、吉澤
 36年卒 上田、山下、新川、西山、荒川
 37年卒 加納、滝沢、東、山本(道)、恩田、金子(弘)、鈴木、篠原、村田、卯月、打矢
 38年卒 宇野澤、栗又、小久保、松村(啓)、白倉、吉田
 39年卒 稗、宮内、真下
 40年卒 田野辺、笠原、梅崎、鈴木(精)、関根、山崎、斎藤(洋)、井村
 41年卒 斉藤(雄)、金子(治)
 45年卒 青山、斎藤(延)
 46年卒 島田、新井、福田、豊田
 48年卒 松村(幹)
 49年卒 箕打
 50年卒 加賀谷、小竹
 51年卒 倉川
 52年卒 狩野
 現役学生 角田(4年)、幹事長山川(3年)
 関野吉晴氏 以上55名



▲滝沢OBの献杯



▲関野吉晴氏の講演



▲関野さんと一緒に 吉澤OB・上田OG



▲元気の現役

濱田政則OB・山の会会長退任の挨拶

濱田OB(S41年卒)が早稲田大学理工学術院教授を退官され、山の会会長も退任されました。2月9日に井深記念ホールで退官記念講演が行われ、その後リーガロイヤルホテルで400名近い人が参加し、記念パーティーが行われました。我が国地震工学の第一人者だけに盛大なパーティーでした。濱田OBから山の会会長退任の挨拶をいただきましたので掲載致します。(編者注)

1994年に東海大学から早稲田大学に移籍して来て間もなく、学生課長から私の研究室に連絡がありました。用件は、「山の会」から、年間の活動報告や収支報告が出ていない。活動も停止しているようだ。先生は学生時代「山の会」の会員であったと聞いたので、状況を調べて活動が再開出来るように支援してくれないかということでした。

早速、井村英明、鈴木明人両先輩にも連絡を取って調べた所、実際に活動しているのは数人足らずで、ほとんど活動を停止した状態であることが分かりました。本部キャンパスの部室にも出向いてみましたが、学生もおらず活動の形跡もありませんでした。

とりあえず学生課のいう最低会員数20人を確保するため、研究室の学生も入れた名簿を提出し、私自身も学生と何年振りかで山登りを再開して、これを山の会の実績として認めてもらうことにしました。学生達の努力と先輩方の御支援もあって会員数も順調に増加し、会の活動も軌道に乗って来たと安心していました。しかし暫くすると再び会員数が減りはじめ、活動ももとの低調な状態に逆戻りしてしまいました。ここ2～3年活動がやや活発になりつつありますが、未だ安心出来る状況ではありません。このような時に会長を退任するのは誠に心苦しく、申し訳ない次第ですが、後任を創造理工学部教授の秋山充良先生にお引き受け頂くことになりました。秋山先生は東日本大震災が発生した2011年に東北大学から早稲田大学に来られた新進気鋭の研究者であり、また学生の教育にも熱心な教育者でもあります。山の会の再生と発展に御尽力頂けるものと確信しております。

私事で誠に恐縮ですが、早稲田大学退職後、神戸にあるアジア防災センターにセンター長として籍を置く傍ら、理工学部の近くに事務所を開設しました。引き続き地震防災分野の調査研究と成果の社会での実践に微力を尽くしたいと考えております。退職で多少の時間的また心の余裕も出て来るものと思います。山登りを再開したいと考えておりますので是非ともお声をかけて頂き山行にお誘い頂ければ幸いです。

今後とも御厚誼を頂きますようお願い申し上げます。「山の会」会長退任のご挨拶とさせていただきます。



▲退職記念会にて：妻 詔子、孫 麟太郎

平成26年4月 濱田政則

会員近況報告—2014年総会・新年会返信はがきより—

役員会

医師から登山禁止を告げられてから2年目に入りました。北アを眼前にするとその誘惑に負けそうになったり、心房細動を起こすと助からないよと自分に言い聞かせたり何とも不安定な気持ちでいます。しかしそれを除けば本人はいたって元気で、あちこちで開かれる友人知人との飲み会には必ず出席して天下国家を論じています。清水正昭 (S33) / 歯・全部有り。目・乱視が進んだ。手足・細くなって力弱し。五臓六腑・まずまず。手元・不如意。小松雅美 (S34) /* 元気に仕事中心に行動しています。昨年はバブコック日立の仕事で呉に行き戦艦大和の大模型を観てきました。2回目は江田島に行き兄貴の青春時代をしのんできました。宮野準治 (S35) /* 療養中で出席できず残念です。清水保宏 (S36) /* (稲山通信に) 掲載いただいた「百名山スローランナーの記録」有難うございます。感謝でいっぱいです。2月の久住山に3度目の挑戦をします。4月には本橋・笠原・山根氏と4人で屋久島の宮之浦岳を2泊3日で縦走し、指宿温泉で疲れを取る予定です。広瀬舜一 (S38) /* 昨年秋に後期高齢者の仲間入りをしましたが、「老人モード」に切り替えながら、山歩きをつづけています。彼の日の懐かしい山々を「眺める山」を探しては出掛けるといふ山行が多くなりました。とりわけ北海道が、このところの“お気に入り”です。恩田和夫 (S37) /* スキー、海外旅行、山登り何でもやって居ます。足腰がなえるまでやります。古巣の中近東に行く機会を狙っています。同行の仲間はいませんか？打矢之威 (S37) /* この冬は何年かぶりにスキーに行きました。初級コースを恐る恐る滑りました。皆さまのご健康をお祈りいたします。古林美穂子 (S38) /* 今年もまた、油絵100号に取りかかっています。今年も、もう一度ヒマラヤ、アンナプルナ南峰を描いています。4月2日～の示現会に出展します。栗又功雄 (S38) /* 元気です。福岡の60才以上の山登りの会に加入し、福岡近郊の低山、九州山地の奥深い山等に登っています。高森淳一 (S39) /* 稲山通信を楽しく、又うらやましく読ませていただいております。当方地域自治会活動で日々忙しく貧乏暇なし状況です。山行は神奈川県下中心の低山歩きを月1～2回行っております。磯部映美 (S39) /* 目黒区選挙管理委員会委員長を拝命しましたが、“選挙の無い年”のはずが、予定外の「都知事選」が入り、新年早々より慌しくなります。BSTVの「百名山」をこなしています。山崎征彦 (S40) /* 昨年は北海道オプタテシケ (十勝)、神威岳 (日高)、鳥甲 (秋山郷)、九州傾山等55座登りました。ヨタヨタ登山です。今年も体力に合った山を選んで登るつもり。(若干無理しながら)長谷川徹 (S40) /* 昨年初孫が生まれ育ジイを楽しんでいます。山はハイキングを年に数回と行ったところデス。小島俊一 (S41) /* ハケ岳での怪我以来、静かにしています。入院中諏訪湖の奥上に白い穂高連峰が見えました。好きな山なので、ずっと見ていられる土地として記憶に

残っています。渡辺征二 (S42) /* 2月2日に郷里で開催される「丸亀国際ハーフマラソン」に出場するため、残念乍ら欠席させていただきます。佐久間正昭 (S43) /* 昨年は夏 (7月末) に、古希記念に学生時代の思い出の一部である針ノ木岳より五竜岳迄単独縦走をしてきました。梅雨明けの期間と思って出掛けたのですが、(梅雨) 明けきらず、五日間のうち三日間は雨にたたられ難渋しました。また六月には念願であったミヤマキリシマを見にテント泊で九重に行ってきました。こちらは三日間ピーカンでした。上原敏行 (S43) /* 体調は悪くないのですが、ともかく血糖値がワースト記録となり、宴会を自重しています。丹治和男 (S43) /* 岩も雪も知らずに「山の会」に入って今年で47年め・・・昨年はギアナ高地、パタゴニア、甲斐駒、仙丈、権現など。年令・体力に相応した山登りを続けています。新井昭夫 (S46) /* スノーシュー2年目の今年1月は奥日光の刈込湖と上信の黒斑山で雪上散歩を楽しんできました。中村牧生 (S47) /* 返事が遅くなりました。昨年大病をしまして、3ヶ月近く入院して、酒もゴルフも禁止状態です。会費の方は、すぐ振込みます。鈴木良一 (S48) /* 「稲山会通信」の諸先輩の達意な文章は、年間の山行日数やコースタイムを競い、広言を吐いては一人悦に入っていた学生時代へと誘ってきます。具体的な山の記憶となると、往時茫々、定かなものはなく、前後の脈絡なくフラッシュバックの如く様々な記憶の断片が脳裏に甦ってきます。広瀬様 (OB) のように百名山は無理でも、深田久弥氏 隣県の石川県生まれ、旧制福井中学 (現藤島高等学校) 卒業の後輩に当たる私としましては、手元の古びた国土地理院の地図や埃にかぶっている同氏の著書を手掛かりに、踏破した山々を確認し、自分なりの山登りを見つければと思っています。小竹正雄 (S50) /* 7月に、名峰トムラウシ山に家族8人でテントを担いで登り、日本百名山を完登いたしました。また、ピークに立った内外の山の数も延べ654座となりました。これからも足腰を鍛え、山登りを楽しみたいと思っています。石原順三 (S51) /* 就農して7年目。有機農法で野菜を栽培しています。毎日畑に立っているため、山には登れないでいます。自然生活に近づいていきたいと考えています。倉川秀明 (S51) /* 所用の為欠席させていただきます。ご盛会をお祈り致します。本田伸樹 (S54) /* ニセコに行く日程と重なったので欠席させていただきます。瀬川徹 (H3) /* 一昨年から沖縄県の離島久米島で生活しています。春には帰京の予定です。四倉弥生 (中島) (H3) /* 現在妻が三人目の子供を妊娠しています。家の事を私が行なっていることもあり、今回は欠席とさせていただきます。濱田先生が退官されるそうですね。「山の会」の事務手続きは問題ありませんか？ 桐山貴俊 (H14) /* 本年度の現役学生の幹事長を務めさせていただいています商学部3年の山川と申します。宜しくお願い致します。山川穰 (商3年)

山とスキーの会「乗鞍高原スキー」の報告

新井昭夫 (S46年卒) 記

2014年2月28日(金)～3月2日(日)の間、東京駅発のスキー・バスで恒例の「にぎり湯」に泊っての乗鞍高原スキーの会が開催されました。時代の流れもあり、今回が最後のスキーの会となりました。長い間、中心になって御世話を頂きました、市村OBご夫妻に、その労にお礼を申し上げ、感謝状と記念品をお贈りしました。今回は市村ご夫妻、大国OBご夫妻、荒川OBご夫妻、佐藤嘉紘OB、斎藤雄二OB、新井昭夫OB、及びその友人達の合計で14名のこじんまりとしたツアーでした。市村ご夫妻には、スキー場の決定、宿・バスの手配、食事の手配等大変な作業を一手に担って頂きました。改めてお礼を申し上げます。この間に行ったスキー場は尾瀬戸倉、岩鞍、関温泉、丸沼高原、岩岳等でした。乗鞍高原は宿の温泉が良く、グレンデも近くで便利で快適な宿でした。

市村OBからのメッセージをお届け致します。

山とスキーの会の代表・市村栄一OBからのメッセージ

大国君の仲間と私の仲間が合体して、「山とスキーの会」としてスタートしたのは平成2年の事と思います。初回の前日に大国君が目痛み、急遽不参加となり、私が代役を勤める事となり、以来そのまま今日に至った次第です。25年間よく続いたと思います。これも大国君をはじめ、会員皆さんのお力添えを頂いたお陰と感謝しております。最盛期には大型バスの補助席を使う程の集まりでした。さしたる事故もなく、ここに終了を迎えました事は、会員の皆さまのお力添えがあったからこそと感謝する次第です。有難うございました。スキーは今後も続けたいと思っておりますので、その節は御一報下さい。



▲市村夫妻、ご苦勞様でした



▲乗鞍の勇士たち



▲盟友

春のハイキング「矢倉岳」のご報告

幹事 齋藤延雄 (S45年卒)
松村幹雄 (S48年卒)



▲新入生候補・現役全員集合

今年の春のハイキングは、新人勧誘を兼ねて足柄山地の矢倉岳（870m）で行いました。当日は天候にも恵まれ、総勢27名の大部隊となり5名の留学生を交え、英語が飛び交い国際色豊かなパーティーとなりました。

矢倉沢から2時間程の登りで、矢倉岳（870m）頂上に到着。富士山を眺めながらワイワイガヤガヤの昼食を済ませ、桜が満開の地藏堂に予定通り下山しました。

新松田駅前では、OB・現役に一般学生を交えての懇親会で盛り上がり、18時頃解散となりました。

日時：2014年4月13日（日）

参加者：*OB 恩田・打矢（S37年卒）・松村・白倉（S38年卒）・井村・笠原（S40年卒）・齋藤・金子（S41年卒）・齋藤（S45年卒）・島田・新井・福田（S46年卒）・豊田（S47年卒）・松村（S48年卒）……14名

*現役 山川（商4年幹事長）・角田（文構4年）・渡邊（政経4年）……3名

*一般学生 10名（山の会入会希望者とその友人）



▲参加者全員集合

「投稿」 大国OB 「山に遊ぶ」 から抜粋

大国OB（S33年卒）が奥様と達成された日本百名山完登の記録を「やまに遊ぶ」のタイトルで発刊されました。珍しいご夫妻での完登に加え、百名山が水彩画で彩られ、心が和む楽しい本になっています。今回の「投稿」は大国ご夫妻の了解を得て、この本の一部を抜粋させていただくことにしました。（编者注）

はじめに

義父の還暦を記念して富士山に登ったのが、主人との本格的な初めての登山です。それからたくさんの山に登りました。今から思い起こすと、この義父、主人と登った富士が、百名山を踏破した礎となっているように思われてなりません。実際には、登った山のなかに、百名山に名を連ねる山が80座位、含まれていた頃から百名山を意識しました。そして私の還暦を迎えるにあたり、百名山の踏破を目指し始めました。

およそ40年の歳月をかけて登り、その思いを記録として、ここに本にまとめました。はがき絵はすべて私が登山の折の印象を元に水彩画で描いたものです。

登山と並行して桂森林先生に習い始めた水彩画も杉野春美先生の絵テガミとの出会いに恵まれ、この本の挿絵として結実することが出来ました。楽しい思い出に花を添えることが出来て幸せに思います。



▲劔岳・一服劔から前劔を望む



▲穂高岳・前穂北尾根

山に登ることにより、人生が豊かになり、楽しい仲間に出会えて、目標を持ち、力を合わせて進む楽しみを知りました。雄大な景色、可愛いお花畑が目にとつき、頂上で飲んだ一杯のコーヒーのおいしさが身にしみわたっています。私たち夫婦にとりまして、このような経験は宝物でございます。

これが終わりではなく、これからも思い出の山や未踏破の山などに挑戦して、一生登れる限り、体力の続く限り、登り続けたいと思います。

最後に一緒に思い出を作ってくださいました皆様に感謝いたします。

2012年1月吉日

大国日出子

鳥海山行

大国恒雄

今から6年前、平成元年の8月14日に鳥海山への登行を計画したのは、家内の体力回復が目的だった。彼女は生死にかかわるような大病が発見され、手術を受けていたのだ。

頻繁に山登りをする私に合わせたのか、彼女が山登りをするようになったのは結婚後のことである。彼女は日本舞踊で身をたてようと思ったこともあるくらいで、そもそも体を動かすのは嫌いではないらしく、休日をともに山登りをして過ごすことが多くなっていたのだ。この時はお盆休みと云うこともあって、子どもたちもついてきた。

鳥海山は噴火を神意と見ていた古代には、神の宿る神聖なる山とされていたし、中世から近世にかけては、山岳信仰を保ち続けていた山であるが、わざわざ家内の病後の体力回復に鳥海山を選んだのはそのためではなく、東北で最も高い山のひとつであるということと、山裾を直接日本海に落とし、「出羽富士」と呼ばれる程のその姿の美しさ、そして、数年続けて春山スキーに出かけた時に見た、その残雪風景の印象の美しさその理由であった。

登山のとき相手にするのは自然である。それは時にはとても厳しいものだが、同時に限りなくやさしいものでもある。ときどき激しい顔を見せるのは、相手を陥れようとか、揚げ足を取ろうとか、競争心からではない。自分で計画を立て、自分の思うように登っていく。自分のペースで一步一步登ることによって制覇するという登山は、限られた時間内に、いわゆる「敵」と点数を取り合うスポーツとは、また違った楽しみがある。無力な人間に対する山の厳しさは、敵意や悪意などと呼べようはずはなく、それにひとりで対応しながら、下界に戻れば、逆に自然の懐の深さを感じ取ったりする。

今回のルートは酒田から5合目にあたる銚立までは車で行き、それ以降は、象潟コースの御浜小屋へ、更にトラバースコースを取って、新山、七高山を登頂。再び同じ経路を戻ってくるという一日コースであった。

その日は強烈な熱帯低気圧が近付いているとの天気予報であった。雑木林に囲まれた急な石段から始まる取り付きから、既に小雨が降っていたが、とにかく歩けるところまで歩こうと登り始めた。小雨と淡いガスの中をただただ歩く。登り続けて、草原と小さな岩場を登りつめると、そこに御浜小屋があった。

御浜小屋を過ぎた頃には、ガスはますます深くなり、御田が原付近に登り切った頃には、それに強風と大雨が加わった。天気の良いければ、このあたりは、高山植物の花が咲き乱れ、この山行でもっとも美しい場所の一つだ。

私たちの足元にはトリカブトが小さな紫の花をつけている。その紫を微に見ながら、歩を進めていて、私は三十年以上前、まだ私が学生であった頃に戻った感覚を覚えた。

あるいは、私は若返っていないかもしれないが、少なくとも周囲だけは、三十年以上前の

ものような気がしたのだ。

鳥海山に単独行を果たしたのは、昭和32年8月19日、20日、21日のことだから、正確には実に三十七年前のことになる。夜行で酒田を目指し、湯ノ台温泉まではバスを使い、そこから滝ノ小屋、河原宿まで歩き、そこで一泊。翌日は、心字雪溪～行者岳～新山～七高山～祓川と云うルートで再び一泊。3日目ようやく矢島に到着。そこから現在で廃線になってしまっている矢島線に乗り、羽後本庄に出て、車中泊で東京に戻ってくると云うアプローチの長い山登りであった。

トラバースコースの分岐点から風雨はますます強くなる一方で、顔や体じゅうに当たって痛いくらいになってしまった。本来ならば風雨のなかの強行登山は禁物だが、家内の体力を見ながら、激しく雨粒が叩きつけるなかを雨具を着込み、歩き続けた。単独行に比べて、伴うものがあると、相手の体力のことも考えなくてはならないし、気を使う。手をつなぐという訳ではないが、精神的には家内の手を取るような心持で、私は学生時代の私から、家内を連れ立って歩く私に戻っていた。

ようやく山頂近くまで来ると、雪が残っているのが目に入ってくる。そういえば三十七年前も心字雪溪（大きな雪溪と小さな雪溪があり、文字どおり心字雪溪にみえる）には八月だというのに、万年雪が残っているのに驚かされたものだった。

鎖場を下って、また登りきった所に祠があったのだが、今になって家内に訊いてみると、忘れてしまったのか記憶にないそうで、代わりに、あの雨では景色も何もゆっくり見られたものじゃなかったとの感想が返ってきた。

雨とガスに閉ざされた中をただ黙々と山道を歩くだけという鳥海山行は、家内にしてみれば、大変な目に遭ったという印象が強かったのだろうか。

(平成7年8月14日記)



▲鳥海山

あとがき

大国恒雄

学生時代に早稲田大学山岳部で遭難事故死が続けて数回起きた為に山岳部を閉鎖するかもとの噂がありました。

我々、山が好きな仲間（和田匡弘、磯貝芳朗、横田清、高橋啓二、上田訓央、市村栄一、難波菊次郎、小松雅美、諸氏）等が集まり、山に対し総合的な見地から対峙した山登りを行おうと早稲田大学山の会を創立しました。末尾に学生時代にその仲間と一緒に登った山の名を列記します。その数からも推察されるように、大学時代、3日に1日は山にいる生活を送っていました。そのような仲間たちと「やま」という雑誌を創刊して、年に一度刊行しました。自分たちで広告を掲載する企業や商店を捜し、定価をつけて流通販売させる本格的な雑誌です（創刊号の定価は60円でした）。そこには私たちが撮影した山行や山の写真が口絵として掲載され、山村や高山植物の調査や研究の報告、論説、山行の記録、山の医学から紀行文、詩まで私たちが日々、真摯に山と対峙した成果や思いが詰まっています。

私は創刊号から4号まで編集委員として活動し、3号では編集責任者となりました。又、個人的にも地誌、地理などの知識を若い人たちに伝えていきたいと希望し、政経学部在籍しながら、教育学部にも聴講し、中学・高等学校の社会科教員免許状も取得しました。

現在76才になりますが、今でも月に1度か2度の割合での山行、山スキーを続けています。これもひとえによき伴侶に恵まれ、家族の強力なサポートがあつてのことと感謝しています。

これからも、岳友、友人の皆様、家族と共に楽しい山行き、山スキー等を続けて行きたいと思ひます。

感謝

編者注：学生時代に登った山は省略させていただきました。



▲近況：北海道・焼尻島にて



▲近況：乗鞍スキー・帰りのバスにて

2013年度会計報告 (2013年1月1日～12月31日)

稲門山の会

単位：円

項 目	収 入	支 出	残 高	備 考 欄
前期からの繰越額 (預金・現金計)			4,795,476	
2月2日、新年会費用 (大隈会館)		315,000		
新年会費 (6,000円×41名分)	246,000			
年会費@4,000円の入金・新年会時入金37名	148,000			
年会費・振込分 85.75名分	343,000			
金融機関等の預金受取利息	549			
現役のHomePage作成費用 (エッセンティア社)		9,660		現役の山の会のHP作成費用
稲門山の会HP管理費 (NTT Smart Connect) @2,625×11ヶ月分		31,498		OB会の稲門山の会のHP
学生の山の会HP管理費 (NTT Smart Connect) @4,725×11ヶ月分		56,700		現役の山の会のHP
東京都山岳連盟年会費		20,080		
稲山会通信印刷費 (康印刷26号, 27号, 28号3回分)		235,830		
銀行振込手数料		4,200		
振替用紙費用 (1000枚)		1,100		
春のハイキング余剰金	7,305			高松山
秋のキャンプ費用補助		9,074		丹沢・作治小屋
お香典		10,000		角田OB
事務局費用仮払金		200,000		
現役への支援 (教材費、ザイル、装備費、歓迎会費用補助)		99,819		
新人勧誘費用 (OBの自宅から大学までの交通費)		35,960		
収支合計	744,854	1,028,921	4,511,409	
項目別預金残高内訳書				
一般会計 郵便公社預金			498,639	通帳残高額を確認済
年会費入金振替郵便口座			1,129,500	通帳残高額を確認済
みずほ銀行口座			868,629	通帳残高額を確認済
特別会計 遭難対策費 (郵便定期預金①)			1,000,000	通帳残高額を確認済
遭難対策費 (みずほ銀行定期預金②)			1,014,641	通帳残高額を確認済
合計			4,511,409	
注記	上記の会計報告を致します。			
①2013年度会費入金 122.75人×4,000円=491,000円				
②事務局費用仮払金の12月末残67,172円				
2013年度の費用 イ、2013年度新年会・総会案内費用42,900円	会計幹事：新井昭夫			
ロ、2014年度新年会・総会案内費用37,250円	(尚、別途会計監事が銀行通帳残高書と照合済です)			
ハ、稲山会通信27号発送費用 48,440円				

「秋のハイキング・日向薬師」のご案内

松村幹雄（S48年卒）記

例年“秋のイベント”は、山小屋への一泊と登山をセットして企画して参りました。

しかしながら、この数年参加者の高齢化が進んでいることから、今回はより気軽に参加が可能な日帰りハイキングに企画を変更しました。

日向薬師ハイキングコースは、東丹沢七沢温泉郷と日向薬師（日本三大薬師のひとつ）を結ぶ歩行時間2時間程度のファミリー向けコースです。秋の雑木林を散策し、帰路は七沢温泉での立ち寄り湯も予定しています。皆様是非お誘い合わせのうえご参加下さい。

日 時：2014年10月19日（日） 9時集合

集合場所：小田急本厚木駅東口「厚木バスセンター・9番乗り場」

行 程：本厚木駅（バス35分）→広沢寺温泉入口（徒歩40分）→大釜弁財天（徒歩10分）→七曲峠（徒歩15分）→日向山・404m（徒歩35分）→日向薬師（徒歩25分）→七沢展望台（徒歩10分）→七沢温泉入口 解散

昼 食：各自持参下さい。

幹 事：齋藤延雄（S45卒）yuiyui@zg7.so-net.ne.jp 080-4005-3934

松村幹雄（S48卒）mykof04@s5.dion.ne.jp 080-5175-9695

※ご面倒ですが、参加予定者の概数を把握したいので、参加しようかなとお考えの方は10/10迄に幹事宛にご連絡下さい。雨天は中止とします。

編集後記

濱田会長が退任され、挨拶文をいただきました。山の会の中興の祖で、山の会の復活にご尽力いただきました。長い間ご苦勞様でした。感謝。投稿は大国OBご夫妻の100名山完登の報告「山に遊ぶ」から抜粋させていただきました。水彩画がモノクロで本来の美しさが出せなかったことが残念です。

今年は山の映画の当たり年です。東京都写真美術館ホールでは「山岳映画特集上映」があり、5月2日に終わってしまいましたが、私はアーノルド・ファンクの「モンブランの嵐・1930」年を見してきました。その後ヒューマントラストシネマ有楽町で「K2・初登頂の真実」を見ました。これは現在も上映中かと思います。これからの映画としては6月28日から「ビヨンド・ザ・エッジー歴史を変えたエベレスト初登頂」がヒューマントラストシネマ渋谷で公開されます。その後9月27日からは「アンナプルナ南壁・7400mの男たち」がヒューマントラストシネマ有楽町で公開されます。以前見たメスナーのナンガ・バルバート「ヒマラヤ・運命の山」を含め、初登頂の執念と怨念には圧倒されます。山は（登らずとも）映画を見ることでも楽しめると思う年頃になりました。

斉藤雄二(S41年卒)記